

早稲田大学 文化構想学部 国語(現代文) 講評

(総合分析)

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、現古漢1問)

(大問別講評)

- 一 評論文。「心」について。出典：A：中沢新一『森のパロック』、B：南方熊楠『土宜法竜宛書簡』。
(本文字数：約 2600 字 = 昨年より約 1400 字減少。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問一	標準	【傍線部説明】A・B両文章の対応をおさえる。
問二	やや難	【空欄補充】A・B両文章の全体像から考える。イは「物界でも」が誤り。
問三	やや易	【傍線部理解】Bの中でも検討すべき範囲が文章後半のみと狭いので容易。
問四	やや易	【傍線部説明】傍線部の直前10行の内容を「パラドックス」と言い換えている。
問五	やや難	【傍線部理解】A・B両文章の対応と、「条理」という語句の意味から考える。
問六	易	【空欄補充】bとcのみで答えは決まってしまう。
問七	やや易	【傍線部説明】空欄cを含む文の一文前が、同義表現。
問八	やや難	【内容合致】Bの文章をていねいに検討する必要がある。

- 二 随筆文。出典：堀江敏幸『煉瓦工場の退屈』。

(本文字数：約 2900 字 = 昨年より約 1500 字増加。設問数：8 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問九	標準	【空欄補充】空欄二の2行前の本文に根拠がある。
問十	やや易	【傍線部説明】文章の始めから傍線部の前後までの文脈から判断できる。
問十一	標準	【脱落文挿入】二とやや紛らわしいが、「退屈」と「風景」のつながりから判断する。
問十二	やや難	【空欄補充】「形象」という語句の意味を知っていたか。
問十三	標準	【傍線部説明】「風景」がどのように成立するとジンメルが語っているのか。傍線部はそれを否定したものである。
問十四	難	【空欄補充】前の連の2行目と3行目との関係から判断する。
問十五	やや難	【内容合致】二は、言葉が「変質」という点が誤り。
問十六	標準	【漢字書き取り】文脈から意味を判断する。

(総合コメント・今後の指針)

昨年と比べて、大問一は短くなったものの、大問二はほぼ二倍の長さになった。さらに、大問三の漢文の量が増加した。時間に追われた受験生が多かったであろう。

また、「形象」「変質」などの語句の意味を正確に把握していないと解きづらい設問も出題された。ふだんから知らない言葉が出てきたら辞書をひいて用例にまで目を通しておくとよい。平日頃の地道な努力で言語感覚は養われていく。

大問一は、「心」をテーマにした評論文。昨年と同様、現代評論と文語文がセットで出題された。設問は、両者の対応をおさえて各選択肢と本文の内容を一つ一つ丁寧に照合しないと解けないものが多く、時間がかかると思われる。

大問二は、随筆。本文内容はそれほど難しくないが、詩にからんだ設問も出題された。随筆やエッセーに慣れていない受験生は苦戦したかもしれない。

早稲田大学 文化構想学部 国語(古典) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、現古漢1問)

〔大問別講評〕

三 現古漢融合文。出典：益田勝実『説話文学と絵巻』（漢文『冥報記』・古文『日本霊異記』）

（本文字数：合計約2500字(昨年約2350字)…現代文：約1400字(昨年約1500字)、古文：約900字(昨年約800字)、漢文：約200字(昨年約50字)。設問数：9＝昨年と同じ。）

小問	難易度	コメント
問十七	やや易	【文脈把握】第1・2段落の内容から容易に判断できる。
問十八	やや易	【空欄補充】空欄の8行後の「因果思想の枠」に着目する。
問十九	標準	【句形】否定形「莫肯……」を把握しているかどうか。
問二十	標準	【書き下し文】「便」の読みと、否定形「不復……」を把握しているかどうか。
問二十一	易	【文脈把握】前後の内容から容易に判断できる。
問二十二	やや易	【文脈把握】乙の第三段落の内容と各選択肢を丁寧に照合する。
問二十三	標準	【空欄補充】直前の「伝奇性」との対比、及び、空欄の3・4行前の内容から。
問二十三	標準	【空欄補充】直前の「経験をなぞって描き出す」から。「写実」は重要語句。
問二十四	易	【文学史】『日本霊異記』は平安初期に成立。ロ・へは奈良時代に成立。
問二十五	難	【文脈把握】「ほどなく」とは明確に書かれていないが、「内容の相違」という設問の条件から考えて最適なのはホ。甲＝伝奇性＝「十数年間空腹にならなかった」、乙＝素朴な写実性＝「食後ほどなく救出された」、である。へが紛らわしい。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問三は、現古漢融合文。昨年と同様に、現代文と古文・漢文との対応をおさえて解く設問はあまりなく、純粋な古文・漢文の読解力や知識が問われる設問が多かった。現古漢融合文が出題されるからといって油断することなく、古文と漢文の学習をすすめてもらいたい。